

コロナ禍収束後における、中国茶輸入の展望



明山茶業株式会社 社長 張文彬
取締役 中国室 張文

1988年上海より来日。名門中国料理店の勤務を経て現任講師。生涯学習茶師、中国茶高級評茶員。特技は卓球、イラスト。好きな食べ物は大戸屋の魚定食。

久しぶりの注文殺到にうれしい悲鳴が上がる

長かった緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置がようやく解除され、2021年10月中旬より、お客様からの中国茶のご注文が徐々に増えてきました。

とくに10月下旬は注文が殺到し、久しぶりの「受注パニック状態」に、うれしい悲鳴が上がったほどです。そして、このままの状態が続いてくれれば、と心の底から願いました。

商品を積んだ船が待てど暮らせど来ない!?

在庫が少なくなり、さっそく在庫補充のため、宣言解除前の9月初旬にオーダーしていたお茶の到着状況を確認したところ、異変を感じました。来ているはずの台湾と中国からの商品が来ていなかったのです。

通常は、オーダーしてからおよそ3週間以内に、産地でお茶の残留農薬検査や品質チェック

を終え、次いで現地税関の輸出手続きも終了。そして、コンテナ船に積み込み、出港という流れなので、本来ならば10月初旬に東京港に到着しているはずですが、ところが、荷物を積んだコンテナ船が、東京に入港してないとのことでした。

調べたところ、台湾「基隆」から中国「福州」から出航したコンテナ船が、いずれも到着していません。さらに船の位置情報を調べると、通常航路を航行せず、変則航路を進んでいることがわかりました。本来ならば東京港に直行するはずが、中国の寧波港や韓国の釜山港など複数の港に寄ってから日本に向かうという、今まであまりないケースが発生していたのです。

その原因は、石油高騰のほか、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナウイルス）の状況が落ちついたアメリカ、ヨーロッパ、中国、台湾などの経済回復

が予想より早く、コンテナ船の数が間に合わなくなってしまうため。世界で使用されているコンテナ船の製造の大半を請け負っているのは中国なのですが、中国では製造が間に合わず、海運業界各社で運送用のコンテナ船が不足していたのです。

お茶の需要と供給のバランスが不安定に

そんな中、海運業界各社は一番経済的な輸送手段を選びます。それは、1台のコンテナ船にできる限り多くの荷物を積み、複数の港を経由することでコストを抑える方法です。当然、商品の到着は遅くなります。

実際に、各海運会社のコンテナ船は、荷主の間で奪い合いの状況だ、と台湾の海運会社にいる知人は言っていました。

しかし、中国・台湾よりお茶を直輸入している我々にとって、生命線とも言えるお茶をお客様に安定供給できないことは大ビ

ンチです。宣言解除のタイミングで注文数は戻ってきたというのに、商品がない。今のままでは、お客様にご迷惑をおかけするだけでなく、信用問題にも関わります。

中国茶の安定供給の維持・強化に努める

しかし、これはお茶に限ったことではありません。世界規模での原材料不足が発生し、部材調達による納期遅延が出ています。しかも、世界各国の需要が一気に回復しはじめたため、この状況はしばらく続くと予想されています。

現在、弊社は輸入のベースを速めるため、中国と台湾のお茶メーカーの協力を得て、貨物船のスケジューリングを細かく把握するよう徹底化。さらに、お客様のご注文のベースに合わせ、欠品のリスクもゼロになるよう努めています。

世界経済に対して甚大な影響を与えているコロナウイルスですが、今後も、業界や競合他社の動向、社会の流れなど多角的な情報に対して常にアンテナを張り続け、安心して安全な、そしておいしいお茶を安定供給し続けていきたいです。